

事業報告書

平成31年4月1日より令和2年3月31日まで

公益社団法人 全日本書道連盟

公益目的事業1

書道に関する講演・講習会事業および地域書道団体に対する助成金給付事業

1. 講演・講習会事業

(1) 第45回夏期書道大学講座の開催

日 時 令和元年8月2日(金)～8月4日(日)

会 場 東京都豊島区東池袋 サンシャインシティ・コンファレンスルーム

受講者数 306名(3日間延べ)

講座内容/講師(本連盟役員が担当)

8月2日 隸 書 鹿倉 碩齋 評議員 / 行書・草書 高橋 照弘 評議員

8月3日 漢字かな交じり書 金子 大蔵 評議員 / か な 野田 正行 評議員

8月4日 篆 刻 岡野 楠亭 評議員

(2) 書写書道教育講演会の開催

日 時 令和元年6月6日(木)

会 場 東京都台東区上野公園 上野精養軒

聴講者数 165名

演題/講師 「書の可能性 ～特別支援教育からの考察」

青森県立八戸聾学校教諭

西里 俊文 氏

(3) 書道講演会の開催

日 時 令和元年11月18日(月)

会 場 東京都港区六本木 国立新美術館講堂

聴講者数 177名

演題/講師 「語りの魅力、映画『カツベン!』公開前」

一般財団法人日本中国文化交流協会常任委員、映画監督

周防 正行 氏

(4) 講習会への講師派遣

地域や施設等の要望により、書道実技講師を派遣した。講師は本連盟事務局委員および事務局が担当した。

① 東京都狛江市 グローバルキッズ狛江園(園児対象)

日時/講師 令和2年1月8日(水) 飯田 善一 氏

15日(水) 高野 早苗 氏

(5) 書写書道教育確立のため、資料収集ならびに調査研究を続けている

2. 助成金給付事業

(1) 助成事業

全国書道団体の活性化、書道文化ならびに書写書道教育の充実発展に繋げることを目的とし、都道府県、市区町村等の単位で組織される書道団体が主催する講演会、講習会等の事業運営に対して助成した。

① 第60回全日本書写書道教育研究会全国大会（東京）

日 時 令和元年9月12日、13日
会 場 葛飾区立中青戸小学校、葛飾区地域産業振興会館（テクノプラザかつしか）
主催団体 全日本書写書道教育研究会（運営委員長：加藤泰弘氏）
内 容 書写の授業公開、分科会、講演等を通して、新学習指導要領の趣旨を踏まえた指導法について研究を深めた。

② 第44回全日本高等学校書道教育研究会岡山大会

日 時 令和元年11月14日、15日
会 場 ピュアリティまきび
主催団体 全日本高等学校書道教育研究会（会長：荒井利之氏）
内 容 高等学校における書道教育の振興を図ることを目的に、会員相互の授業研究、研究協議を行った。

③ 福島県書作家連盟書道講演会

日 時 令和元年12月8日
会 場 福島県文化センター
主催団体 福島県書作家連盟（会長：遠藤苔伯氏）
内 容 会津史研究家・鈴木賢雄氏による講演「会津藩士の書－幕末・維新－」

(2) 展覧会、講習会、講演会などの事業に対する後援 174件

会員（維持団体、賛助団体、正会員、準会員）が主催に加わる事業に対し、無料で後援している。

公益目的事業2

日本赤十字社への募金による社会活動への協力奉仕

(1) 助けあい募金

社会事業に役立てていただくべく、団体会員ならびに役員を主な対象とし、募金をお願いした。

募金協力件数 356件 募金総額 2,523,500円

必要経費を差し引き、240万円を日本赤十字社へ「事業資金」として寄託した。

相互扶助事業 1

書写・書道教育推進協議会への協力事業、日本書道ユネスコ登録推進協議会への協力事業、「日本の書 200 人選」への協力事業、中国大使館への寄託事業、福利厚生事業、会報発行事業、会員名簿発行事業

(1) 書写・書道教育推進協議会

同協議会構成 6 団体のひとつで、協議会事務局として活動に協力した。

学校教育において書写・書道の授業が確実に、充実した内容で実施されるよう、平成 26 年から活動を続けている。

2020（令和 2）年から小・中学校で全面実施される新学習指導要領に沿って、確実に書写の授業が行われるよう指導者研修会を 5 会場で開催した。

- ① 東京都 令和元年 6 月 16 日（日） 国立新美術館講堂
- ② 福島県 令和元年 7 月 29 日（月） いわき市中央台公民館
- ③ 埼玉県 令和元年 8 月 8 日（木） 国立大学法人岩手大学
- ④ 福岡県 令和元年 8 月 21 日（水） 国立大学法人福岡教育大学
- ⑤ 愛知県 令和 2 年 1 月 31 日（金） 新名古屋市教育館

(2) 日本書道ユネスコ登録推進協議会

同協議会発起 3 団体のひとつとして、活動に協力した。

「日本書道 一書き初めを特筆して」が、国際連合教育科学文化機関（＝ユネスコ）の、「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表（＝代表一覧表）」に記載されることを目的として、推進運動を継続している。

調査研究を行うとともに、推進運動が広く認知されるよう活動した。

また「記念品（ピンバッジ）付き寄付」の協力を呼びかけた。

(3) 日本の自然と書の心「日本の書 200 人選 ～東京 2020 大会の開催を記念して～」

東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催を記念し、また日本の書道文化を広く発信するため、書道団体の枠を超えた現代日本の代表的な書家約 200 名と、障がいを持ちながら活躍する書家、また児童・青少年の書作品を展示する。

会 期 2020（令和 2）年 6 月 11 日（木）～6 月 21 日（日）、16 日（火）は休館

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、会期を変更した。

会 場 国立新美術館 企画展示室（1E）

主 催 東京 2020 オリンピック・パラリンピック記念書展実行委員会、
文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会

実行委員会を構成する一団体として、開催に協力した。

(4) 中国大使館への募金事業

中国での社会事業に役立てていただくべく、団体会員ならびに役員を主な対象とし、募金をお願いした。

募金協力件数 356 件 募金総額 1,078,500 円

必要経費を差し引き、100 万円を中華人民共和国駐日本国大使館に寄託した。

(5) 文芸美術国民健康保険組合への加入

本連盟は昭和31年より同国保に団体加入しており、連盟会員で、かつ書に専従する方を対象に、同国保加入の斡旋をしている。

連盟を通じて組合に加入しているもの（令和2年3月31日現在）

組合員	115名	(前期比 -14名)
家族	81名	(同 -16名)
合計	196名	(同 -30名)

かっこ内は、平成30年度末（平成31年3月末）との比較。

書に専従していることの確認徹底、また後期高齢者医療制度により満75歳になると国保へ移らねばならないこともあり、加入者は減少傾向にある。

(6) 会報の発行 3回（第156号～158号）

(7) 会員名簿の発行（令和元年11月）

その他

(1) 令和2年3月31日現在の本連盟会員数は次のとおり

正会員	1,817名	(前期比 -58名)
準会員	75名	(同 -5名)
維持団体	16団体	(同 変わらず)
賛助団体	150団体	(同 -4団体)

かっこ内は、平成30年度末（平成31年3月末）との比較。

(2) 役員会開催 理事会4回（第171回～第174回）